

# 谷村地区

## 其の三

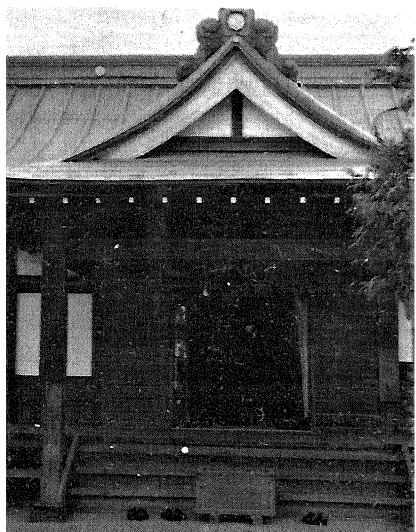
上谷

天台宗 開運山龍石寺 (大津市三井寺山内勸学院)

本尊 不動尊

合祀正一位稻荷大明神

興起縁由



竜石寺 本堂

大同年間の創立である  
と伝えられ、以前は田原滝下に祀られてあった。  
昭和七年十月二十八日

結構規模

現在地に移り入仏式を挙行。五十二世安藤順恵法印は中興当山一世でもある。  
本堂木造六十六坪、向拝の彫刻は福田陽済の作である。  
庫裡木造平屋建で五十六坪。

歴代住職

五二世当山一世 安藤順恵法印  
五三世当山二世 安藤順妙法尼  
(五三世に至る歴代については不詳)

信仰行事

毎月二十八日 縁日  
四月二十八日 例大祭  
十月二十八日 記念例大祭

下谷

本門法華宗 照光山信行寺

妙法寺末

本尊

釈迦牟尼仏 日蓮聖人

合祀本門鬼子母神

開山 日啓上人

結構規模

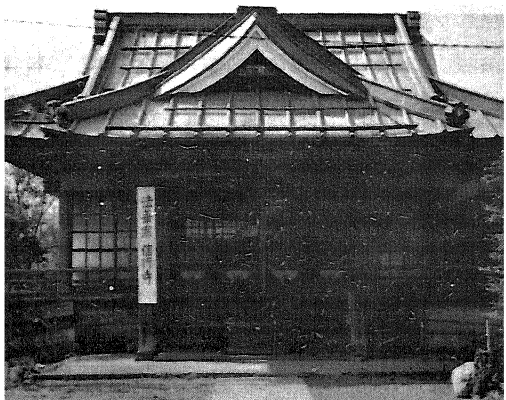
元信行教会であったが、昭和十八年本堂を建立し元教会を現在の庫裡とした。本堂は向拝があり木造で4×6である。

歴代住職

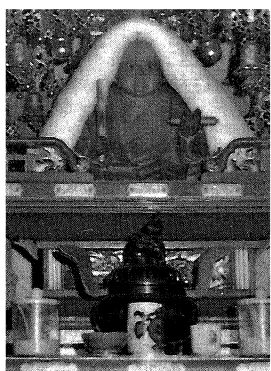
開山日啓上人―二世日昭上人―三世妙淳法尼(姓清水現住)

恒例行事

五月二十八日 鬼  
子母神例祭  
九月十二日 日蓮  
聖人辰の口御法難



信行寺 本堂



信行寺 本尊

下谷

### 曹洞宗 如意山深泉院

長生寺末

本尊 延命地藏木仏坐像像長21cm、膝張り18cm、面長65cm。  
脇侍は性善性悪二童子

#### 興起縁由

永祿四年四月道俗の奇瑞により、本寺長生四世以照宗珠和尚この地に地藏堂を建立しここに閑居した。後元和三年七月二十四日、長生九世胆岳宗銀和尚一字を開創して平院とした。明治に至って長生三十七世吹毛冷生和尚法地として開祖となる。

七世吹毛冷生和尚法地として開祖となる。

開山履歴

当院創立開山長生九世 胆岳宗銀和尚

当院伝法始祖長生三十七世 吹毛冷生和尚

結構規模

本堂、庫裡共に木造

平屋建トタン葺。

深泉院 本堂



本堂は昭和三十九年四月十九日落慶。

境内に十王堂がある。

なおかつては、稲荷、秋葉、弁天の三社があったけれども、今は稲荷神社のみ現存している。

#### 歴代住職

開山吹毛冷生―二世太心法禪―三世富心臨峰―四世大玄全機―五世弘巖豊隆―六世慈山玉麟―七世南嶺北州(現住)

#### 恒例行事

八日、施餓鬼会

#### 民間信仰

「虫封じの寺」として今でも民間信仰の対象となっている。



深泉院 本尊

下谷羽根子

### 曹洞宗 大儀山長生寺

八代広巖院末

末寺は左記二十九カ寺

円通院(下谷) 深泉院(下谷) 法泉寺(上谷) 用津院

(金井) 保寿院(四日市場) 本光寺(盛里) 江西院(

(金井) 伝昌寺(會雌) 福昌寺(富士吉田市上暮地)

円福寺(道志村) 永見寺(道志村) 長応寺(大月市猿橋町)

照光院(大月市猿橋町) 光照寺(大月市駒橋) 宝

林寺(大月市七保町) 法幢寺(大月市賑岡) 東光寺(大

月市賑岡) 威徳寺(大月市賑岡) 正覚寺(大月市富浜)

全福寺(大月市強瀬) 東福院(敷島町大久保) 大聖寺(

葦崎市竜岡町) 宝勝寺(上野原町) 福伝寺(厚利市)

浄雲寺(厚木市) 興教寺(厚木市) 正法寺(掛川市)

光照寺(静岡)

文明寺(静岡県裾野)

#### 本尊由緒

彩迦牟尼仏

木像坐体、像長32cm、

膝張り25cm、面長12

cm、面幅8cm、本体

の胎内に釈迦像がある。

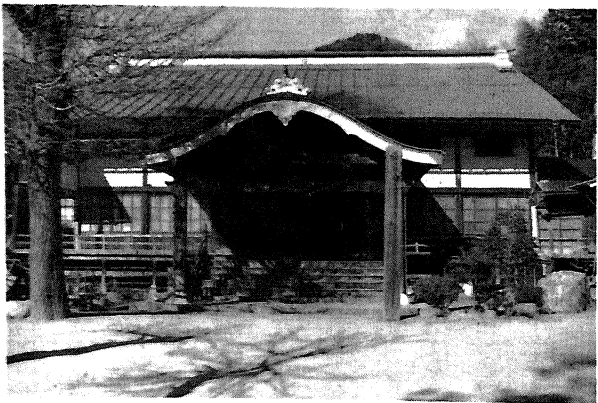
胎内仏の像長8

cm、膝張り6cm、面長

35cm、面幅2cm、こ

の仏像は武田家の内

長生寺 本堂



仏(伝聖徳太子作)として伝えられたものを、小山田信有が本尊として寄進されたものであると伝えられている。

#### 合祀

脇侍 文珠菩薩 像長21cm、天和二年十二月廿五日

施主四日市場土屋源左エ門

普賢菩薩 像長21cm、天和二年十二月廿五日

施主谷村住人中嶋長兵衛

#### 興起縁由 (甲斐国志による)

永正八年辛未(一五一一)、小山田出羽守信有羽根子村の山間に一寺を建立し、一道光円禪師を請して開山とし、寺領式拾貳貫文並に山林許多寄附し号して長生寺と云う。此の山唐山の大儀山に似たればとて即ち取りて山号とす。光円法祖鷹岳禪師を勧請開山とし二世宗篤我は三世の法孫に居る。然れども実は此の僧開山たり。故に用津院は鷹岳禪師初開の寺なれど、三世に至りて長生寺に移りければその後は長生寺の末院となる。天文十四年己巳五月三日 一道示寂。

開基は小山田出羽守信有、法名長生寺殿契山存心禪定門、用津院を移して長生寺を建立し世々旦那たり。天文十年辛丑二月十二日卒。古墳今存す石塔の文字不詳。開祖鷹岳は雲 禪師の法嗣たるを以て広巖院別派末山に属す。永祿十年丁卯十一

月小山田左兵衛信茂其先桃隠軒菩提の為茶湯料として五貫七百文の所寄附す。桃隠は小山田信有にて弘治元年乙卯八月廿三日卒。当山に葬る。常胆院桃隠宗源禪定門と号せり。元龜四年癸酉七月三日小山田信茂拾九貫六百七拾五の所寄附せり。又重ねて式拾貳貫貳百文の地八ヶ所寄附あり。天正十午年小山田亡後鳥居彦右衛門尉元忠檀越たり。此より後代々の領主檀越となりぬ。同十九年正月八日羽柴少将秀勝家臣三輪五右衛門尉近家寺中門前諸役土貢等免許の書を与う。同四月六日は加藤作内光吉免許書有。同十一月十四日光吉より中津森の内にて拾石寄附有。慶長四年己亥三月廿二日浅野左衛門佐氏重羽禰子に於て拾七石八斗並に左右の山寄附状あり。同七月十五日客殿葺壹郡中可<sub>二</sub>合力<sub>一</sub>由氏重下知あり。是より今に至るまで恒例となり葺替ごとに御代官所に申立郡中へ触れて合力せしむ。慶長六年八月廿七日鳥居久五郎成次より高式拾石寄附あり。寛永八年辛未六月十八日鳥居成次卒し当山に葬り勇勝院趙英林柏居士と号す。衆寮の西山下に廟所あり同九年壬申客殿造営鳥居淡路守成盛父成次が追福の為なり云。寛政三年辛亥七月諸堂焼失せしが程無く再建。

此寺は随会出世の叢林なり。宝永八年辛卯四月の寺記に云権現様当国へ御打刻当寺へ御立寄被遊候 当寺十代即室長

偏參諸老 属雲岫 在広嚴 戴笠投之 弘以宗門  
 三印 岫不對曰、此事不可以意解 須力參 乃契  
 因勉看 無字話 他日過市 見技術者弄 狗作舞戲 廓  
 然無礎 帰拳似岫 領之 命居 侍司 晨夕警発 益  
 臻閭奥 越六年去 卓庵金峰山下 教齋沢 居三年 都留  
 郡主小山田氏 勸用津院 請師住持 学徒接 跡而至 山梨  
 郡主飯富氏 興齋沢旧庵 迎師号曰 天沢 遂為 兩刹始  
 祖 延徳四年壬子十一月十二日示 疾於用津院 沐浴更  
 衣 跌坐而逝 寿八十三是実は当山の末寺用津院の開山なり  
 用津院の後山に鷹岳の古墳あり五輪塔存す。

また広嚴列祖法灯伝賛、鷹岳宗俊禪師伝に甲之天沢興<sub>二</sub>長生<sub>一</sub>為始祖云云と記録されている。

結構規模

黒印高三拾五石卷斗九升三合柴山山畑五町五反八畝歩山林六町式反三畝拾歩慶安元年十一月七日寺領改張、秋元家臣松田九郎兵衛磯五次右衛門根岸弥五右衛門関口四郎兵衛四人の奥印あり。又寛文十二年壬子三月の水張三冊。末寺四拾(郡中三十三、西郡四、相州三)、客殿梁八間半桁拾間半、衆寮梁五間半桁拾間(本尊虚空蔵、不動、毘沙門天)、庫裡梁七間桁拾壹間、書院梁六間桁七間、鐘楼、山門梁四間桁六間

茂和尚御目見仕候旨先住より申伝候云云 按<sub>二</sub>編年集成<sub>一</sub>天正十七年中窪根津と云地へ御入駕の事あり。思うに此地名恐らくは中津森、羽根子の訛には非ざるにや然れば長生寺は羽根子に在りて古は中津森の支村なれば此寺に御入駕もありしなるべし。凡そ中窪根津と云地郡中にあることを聞かず。又羽根子は古は金井と同村にして即ち惣称は中津森なり。南は獅子岩の絶壁桂川に峙ち通路なし、山後の峯の撓みに小径を通して金井村へ往来せり。天文申長生寺建立ありてより獅子岩の腰を切通して道を開き往来甚だ近く便利になりければ古道は終にすたれて過ぐる者なく今其跡存するのみ。且つ領主谷村に居城して代々の檀越なれば後遂に谷村に属す。寺領古は所々に散在せしが鳥居成次の時相集めて羽根子一所にて給いしとそ。客殿の後に小池あり中に弁財天女を安置す。祖暁和尚開眼の偈に云、天真弁才有 妙徳 靈水沈々接 藍青 一滴百千汲無価 人間何知道中妙。後池を埋めて開山堂を其地に建て弁天祠は後山に移す。

開山履歴(甲斐国志による)

開山鷹岳宗俊禪師 聃灯録云 甲州天沢寺鷹岳宗俊禪師 姓源氏 濃州加茂郡人也。

出家於補陀山 登具後

(本尊千手観音、広目天、毘沙門天、額長生寺月舟筆) 廟所(鳥居士守成次墳墓号 林柏堂)、白山権現祠、十王堂惣門額(月舟筆)云云と甲斐国志に記されている。

現在の本堂 8×K、庫裡 55×K、書院 K×8、鐘楼堂 15×K×15、宝物庫 2×K。

歴代住職

開山	鷹岳宗俊	延徳四年壬子十一月十三日示寂 用津院開山
二世	積桂宗徳	広嚴大通禪師 詛語集卷之八による 江西院開山
三世	融山宗祝	広嚴大通禪師 詛語集卷之八による 同通院開山
四世	以照宗珠	強瀬 全福寺開山
五世	明庵宗珠	天正三年十一月十九日示寂 保寿院開山 上暮地福昌寺開山 七保宝林寺開山
六世	笑伝宗咄	天正十三年十一月十九日示寂 法泉寺開山 富沢正覚寺開山
七世	広天玄長	賑岡 法幢寺開山
八世	節山宗忠	賑岡 東光寺開山
九世	胆岳宗鈞	上野原宝勝寺開山 平院としての深泉院を建立
十世	郎空宗茂	猿橋長応寺開山 賑岡威徳寺開山
十一世	白鳳宗寂	
十二世	格室宗道	寛文二年三月十三日示寂 円福寺開山
十三世	不 恕達	

十四世 格翁宗越

十五世 一卓是教

本光寺及び伝昌寺開山  
駒橋光照寺開山

十六世 祖月吟教

猿橋 照光寺開山

十七世揚観鉄州―十八世正宗心印―十九世徳芳益陰―二十世

大晃越宗―廿一世異芳天苗―廿二世大道国隆―廿三世丹頼

天鶴―廿四世仰州愚胆―廿五世万翁尺丈―廿六世一乘祖牛―

廿七世徳岩愚要―廿八世大巧万拙―廿九世俊芳大栄―三十世

大乘密仙―三十一世大興揚州―三十二世大謙万雄―三十三世麒麟山道

麟―三十四世東海祖印―三十五世靈岳太仙―三十六世太山法禪―三

七世吹毛冷生 深泉院の法地開山 三六世富山臨峯―三九世大道祖仙

―四十世雨宮悦成―四十一世大峯義仙―四十二世牧牛義童（

現住）。

講社

明治の頃は半僧坊講が関東一円にあったが現在はない。

古器什器宝物

十六善神画一幅、狩野安信画（129 cm × 64.5 cm）

十六羅漢画一幅、兆典司画

龍虎梅竹画屏風二双、古法眼筆色彩画

鳥居土佐守成次寄附（二双共縦165 cm、横57 cm × 6）

涅槃図一幅、兆典司画（203 cm × 180 cm）

小山田契山画像一幅（73 cm × 47.5 cm）

隠元禪師画立達磨一幅（133 cm × 27.5 cm）

地藏尊像画一幅、兆典司画（88 cm × 39 cm）

軍配团扇一、鳥居元忠所持のもの、

七宝盃及台、鳥居元忠寄附

陣床机 鳥居元忠所持のもの、

其の他古文書等。

仏像

開山像 二世像 三世像、

半僧坊像（僧と天狗の形をした木像）木像立体 像長25 cm

肩幅11.5 cm 面長5 cm 面幅35 cm

行事

一月一―三 日 転大般若会 一月十五日 開山忌

二月十五日 涅槃会 三月 春彼岸会

五月八日 降誕会 八月十日 施餓鬼会、宇蘭盆

九月二十五日 両祖忌 九月 秋彼岸会

十月 達磨忌 十二月八日 成道会

民間信仰行事

四月十六日 半僧坊権現祭典縁日

二月十五日 涅槃会

三月 春彼岸会

五月八日 降誕会

八月十日 施餓鬼会、宇蘭盆会

伝説

「長生寺の黒だるま」伝左甚五郎作

江戸時代修業中の左甚五郎が道志村を通ったことがあった。

五軒の大屋に宿泊しそのお礼として一刀彫のだるまを作り去

って行った。

しかしあざかったその家も不幸が起り、だるまを置く家が何

軒か変わったが、持つ家は次から次と不幸が続いた。そこで相

談の結果長生寺へ納めることになった。それからは各家とも末

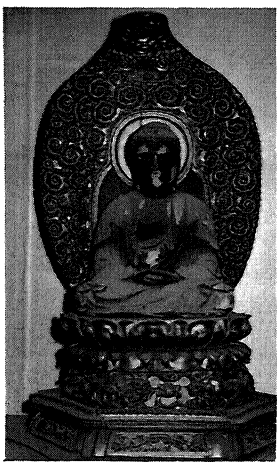
永く栄えたという。いろりの煙りでまっ黒になったので黒だ

るまというようになり現在長生寺に安置されている。達磨は

禅宗の宗祖で七転八起として一搬でも尊ばれているが、長生

寺では禍いを転じて福となすとされ大衆の信仰対象となつて

いる。



長生寺 本尊



長生寺 脇侍



寺宝 小山田契山画像

小野

曹洞宗 金沢山真福寺

宝鏡寺末

本尊は十一面観世音菩薩。

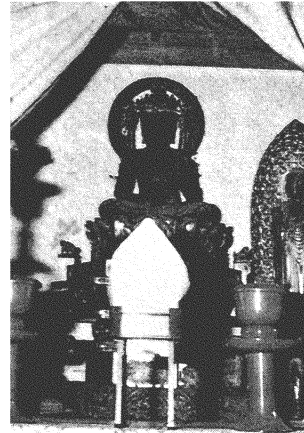
開山は甲斐国志に「天融宗通和尚」とあるが、本寺宝鏡寺の

寺記には「宝鏡寺三世天融義通和尚」とある。

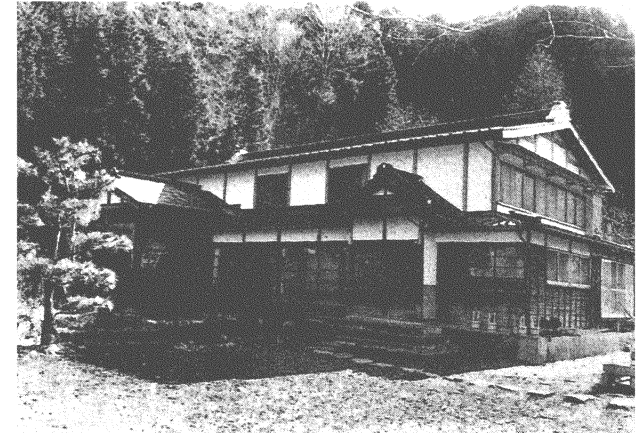
なお開山示寂年月日についても甲斐国志には「文明七年一

四七五乙未五月十二日寂、年七十三」とあるが、宝鏡寺の寺

記によると「天文四（一五三五）乙未五月十二日寂」とあ



真福寺 本尊

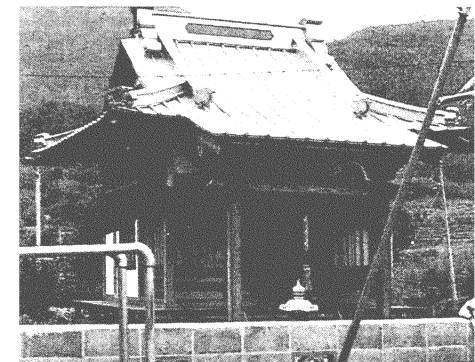


真福寺 本堂

り六十年の差がある。  
境内に薬師堂があり。十二神将が祀られている。

寺宝

- 百万べんの大珠数
- 大般若経六百卷
- 元治元年
- 十王絵掛図軸 十
- 大般若経 一本、
- 天野伴蔵氏寄贈
- 達磨掛軸一幅
- 暁雲画、



真福寺 薬師堂